＜別紙＞各県の弥生時代遺跡概要

○青谷上寺地遺跡（鳥取県）

弥生時代前期末から古墳時代前期（約２４００～１７００年前）にかけて営まれた港湾集落跡です。通常の遺跡では残らない木や骨などの有機物で作られた出土品が数多く見つかりました。遺跡ではモノづくりが盛んであり、とりわけ遺跡オリジナルのデザインと考えられる花弁高杯(かべんたかつき)をはじめとする精巧な木製品が目を引きます。平成２０（２００８）年に国の史跡になり、令和元（２０１９）年に出土品が重要文化財に指定されました。

展示施設「YAYOINE（やよいーね）」では、出土品のほか、人骨から復元した弥生人に出会うことができ、屋外に再現された水辺の景観を散策することができます。

○妻木晩田遺跡（鳥取県）

標高８０～１００ｍほどの丘陵上を中心に広がる弥生時代後期後葉（約１８００年前）に最も栄えた遺跡です。これまでの発掘調査で、竪穴建物跡と掘立柱建物跡を合わせ９００棟以上の建物跡や、四隅突出型墳丘墓を中心とする３９基の墳墓等が見つかっている、鳥取県を代表する弥生時代のムラの跡です。

現在、「むきばんだ史跡公園」として整備が進められており、園内には建物や墳丘墓が復元されています。また、ガイダンス施設「やよいの館　むきばんだ」や発掘調査で見つかった竪穴建物跡をそのまま保存している「遺構展示館」もあり、弥生時代や遺跡について具体的に学ぶことができます。

○津島遺跡（岡山県）

岡山県総合グラウンドの一帯に広がる、弥生時代を中心とした遺跡です。昭和４３(１９６８)年に発掘調査が行われ、日本で初めて弥生時代前期（約２６００～２４００年前）の集落と水田が一緒に確認され、昭和４６（１９７１）年に国の史跡に指定されました。

その後、平成１７(２００５)年度の岡山国体を契機に「遺跡&スポーツミュージアム」や「津島やよい広場」の整備が行われ、歴史学習や体験学習の場として、校外学習や「津島遺跡やよいまつり」に活用されています。また、スポーツや憩いの場としても県民に親しまれています。

○吉野ヶ里遺跡（佐賀県）

弥生時代に集落や墓域が展開した大規模な遺跡で、特に弥生時代後期（約２０００～１８００年前）に国内最大級の環壕集落が営まれました。弥生時代におけるムラからクニへの移り変わりを知ることができ、「魏志倭人伝（ぎしわじんでん)」に出てくる「邪馬台国（やまたいこく)」の時代を彷彿とさせます。このような内容が評価され、平成３（１９９１）年に国の特別史跡に指定されています。

遺跡からは、膨大な量の土器や石器等が出土しており、その中で有柄細形銅剣（ゆうへいほそがたどうけん）やガラス製管玉等が国の重要文化財に指定されています。

現在は、吉野ヶ里歴史公園として整備され、復元施設だけでなく様々な体験等でにぎわっています。